

不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第109回



松尾 謙
不動産学部
2年

大学は、地域の景観を構成する要素の1つでもある。キャンパスの建築デザインや配置、緑地空間は、周辺の街並みを形作る上でも大きく関わっている。私は、「不動産学基礎演習」の一環として

順天堂大学浦安・日の出キャンパスを調査

大学の外観と周辺景観の調和とは

て、順天堂大学「浦安・日の出キャンパス」(千葉県浦安市)の外観、周辺景観の文献調査と現地調査を行い、どのようにキャンパスと街が調和しているかを考えた。

このキャンパスは2022年、医療科学部の新設を契機に開設。4つの講義棟と体育館、グラウンド、実用植物園等の施設からなるキャンパスは、東京湾に面した埋立地に位置しており、小学校や住宅地、公園、広い道路などが整備された街並みの

口だと分かるようなつくりをしており、自然と街に溶け込んでいた。

周辺景観との調和という点では、キャンパス内外にある多くの緑地が挙げられる。文献調査では、海沿い特有の強い風や日差しを和らげるため、並木と呼ばれるランドスケープが採用されていた。現地調査ではキャンパス内にはいたるところに緑豊かな空間が設計され、学生たちが落ち着

考えて計画されたのだと分かる。

私は、順天堂大学「浦安・日の出キャンパス」は建物の高さや外観の主張を抑えることで周囲の建物とうまく馴染んでおり、また、海辺という環境を活用した緑地を多く取り入れ、開かれた空間を作り出すことにより、周辺景観を損なわずに街との調和が図られていると考えた。このような視点・学びを得るのも不動産学部ならではの、更にまちづくりのあり方などへの展開も不動産学の魅力だと感じる。

【教員コメント】

大学のキャンパスは一義的には学生・教職員のための空間ではあるが、松尾さんが指摘するように、周辺環境や住民生活との調和をいかに図っていくかなどの外部との関係性を考えることも、これからのキャンパスづくりにおいて、重要なポイントであろう。

(兼重賢太郎)